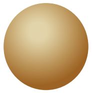
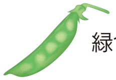
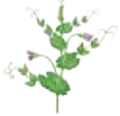
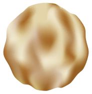
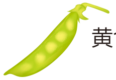
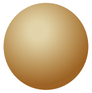
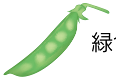
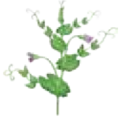
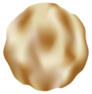
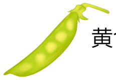
訂正箇所 ページ	訂正箇所 行	原文
102	表5	（下記の表）

表5 **メンデルの実験の結果**

形質		種子の形	さやの色	茎(くき)の長さ
親	顕性形質(けんせいせいしつ)	 丸形	 緑色	 長い
	潜性形質(せんせいけいしつ)	 しわ形	 黄色	短い
子の形質		全て丸形	全て緑色	全て長い
孫に現れた個体数	顕性	5474 ┐7324	428 ┐580	787 ┐1064
	潜性	1850 ┘	152 ┘	277 ┘
孫の形質の比		丸形：しわ形 2.96：1	緑色：黄色 2.82：1	長い：短い 2.84：1

訂正箇所		訂　正　文
ページ	行	
102	表5	

表5 メンデルの実験の結果

形質		種子の形		さやの色		茎の長さ	
親	顕性形質	 丸形		 緑色		 長い	
	潜性形質	 しわ形		 黄色		短い	
子の形質		全て丸形		全て緑色		全て長い	
孫に現れた個体数	顕性	5474	7324	428	580	787	1064
	潜性	1850		152		277	
孫の形質の比		丸形：しわ形 2.96：1		緑色：黄色 2.82：1		長い：短い 2.84：1	

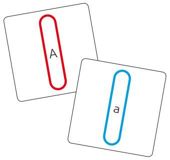
<table>
<tr><th colspan="2">訂正箇所</th><th rowspan="2">原　　文</th><th rowspan="2">訂　　正　　文</th></tr>
<tr><th>ページ</th><th>行</th></tr>
<tr><td>103</td><td>11</td>
<td>●孫に現れる形質の個体数の比
メンデルは種子の形だけでなく，表5 のようにさやの色や茎の長さなどほかの6つの対立形質(たいりつけいしつ)についても調べており，どの対立形式でも，孫では，顕性形質：潜性形質がおよそ3：1になることがわかった。</td>
<td>●孫に現れる形質の個体数の比
メンデルは種子の形だけでなく，表5 のようにさやの色や茎の長さなどほかの6つの対立形質(たいりつけいしつ)についても調べており，どの対立形質でも，孫では，顕性形質：潜性形質がおよそ3：1になることがわかった。</td></tr>
<tr><td>128</td><td>下右</td>
<td>

図2

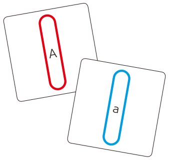
表
<table>
<tr><th colspan="2">丸形</th><th>しわ形</th></tr>
<tr><td>AA</td><td>Aa</td><td>aa</td></tr>
<tr><td>184</td><td>369</td><td>197</td></tr>
<tr><td colspan="2">533</td><td>197</td></tr>
</table></td>
<td>

図2

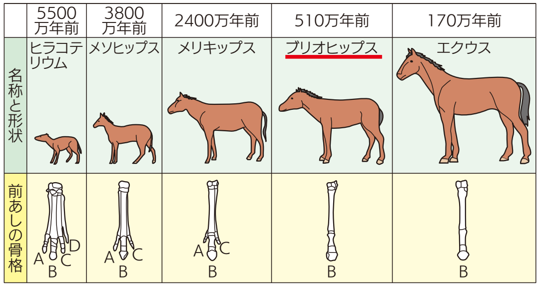
表
<table>
<tr><th colspan="2">丸形</th><th>しわ形</th></tr>
<tr><td>AA</td><td>Aa</td><td>aa</td></tr>
<tr><td>184</td><td>369</td><td>197</td></tr>
<tr><td colspan="2">553</td><td>197</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>129</td><td>中左</td>
<td>ウマの進化


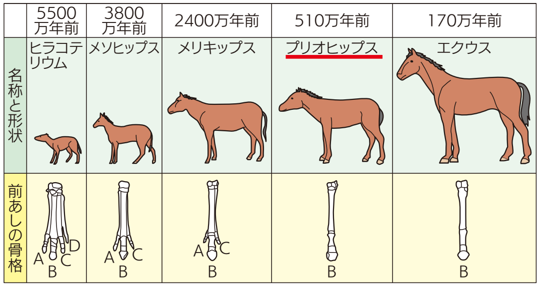
図2　ウマの進化</td>
<td>ウマの進化


図2　ウマの進化</td></tr>
</table>

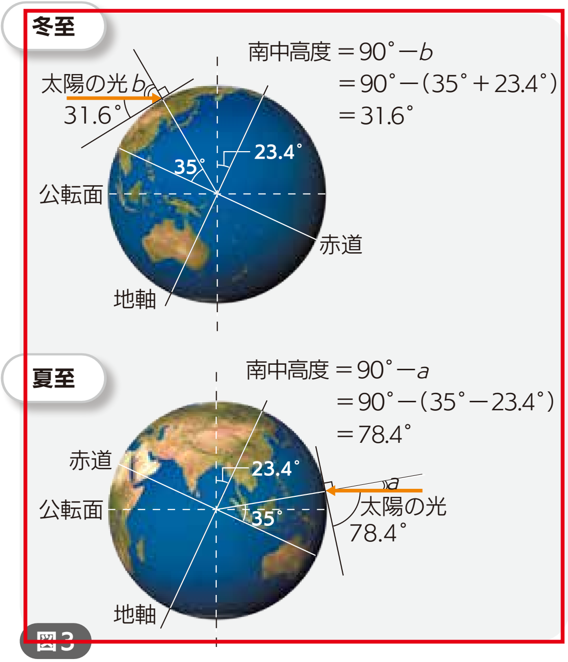
<table>
<tr><th colspan="2">訂正箇所</th><th rowspan="2">原　　文</th><th rowspan="2">訂　　正　　文</th></tr>
<tr><th>ページ</th><th>行</th></tr>
<tr><td>129</td><td>下左</td><td>麻衣「メンデルの遺伝の法則をもとにすると，親のもっている遺伝子のちがいで子に伝わる形質はさまざまになるよね。メリキップスからブリオヒップスの間にBの指の骨格が発達した個体がうまれて，その個体が子孫を残して進化したんじゃないかな。」</td><td>麻衣「メンデルの遺伝の法則をもとにすると，親のもっている遺伝子のちがいで子に伝わる形質はさまざまになるよね。メリキップスからプリオヒップスの間にBの指の骨格が発達した個体がうまれて，その個体が子孫を残して進化したんじゃないかな。」</td></tr>
<tr><td>218</td><td>図3</td><td>

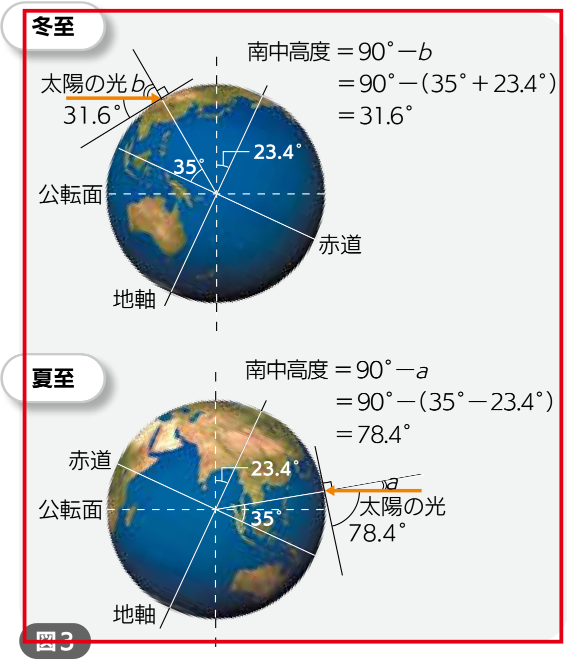
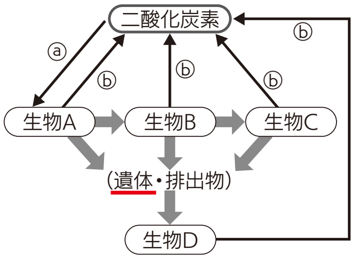
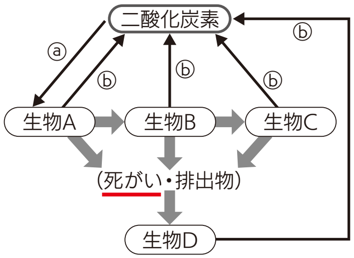
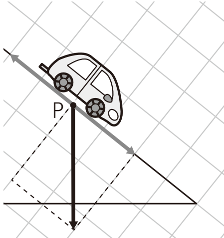
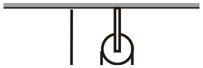
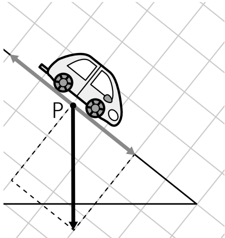
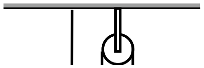
図3
季節による太陽の南中高度のちがい（北緯35°の場合）</td><td>

図3
季節による太陽の南中高度のちがい（北緯35°の場合）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">訂正箇所</th><th rowspan="2">原　　文</th><th rowspan="2">訂　　正　　文</th></tr>
<tr><th>ページ</th><th>行</th></tr>
<tr><td>242</td><td>表1</td>
<td>
表1　主な恒星や銀河までの距離
［理科年表　2019年］
<table>
<tr><td>ケンタウルス座α星</td><td>4.3光年</td></tr>
<tr><td>シリウス</td><td>8.6光年</td></tr>
<tr><td>アルタイル（彦星）</td><td>17光年</td></tr>
<tr><td>ベガ（織姫星）</td><td>25光年</td></tr>
<tr><td>北極星</td><td>433光年</td></tr>
<tr><td>ベテルギウス</td><td>498光年</td></tr>
<tr><td>リゲル</td><td>863光年</td></tr>
<tr><td>プレアデス星団（すばる）</td><td>410光年</td></tr>
<tr><td>オリオン星雲</td><td>1400光年</td></tr>
<tr><td>アンドロメダ銀河</td><td>230万光年</td></tr>
</table>
</td>
<td>
表1　主な恒星や銀河までの距離
［理科年表　2021年］
<table>
<tr><td>ケンタウルス座α星</td><td>4.3光年</td></tr>
<tr><td>シリウス</td><td>8.6光年</td></tr>
<tr><td>アルタイル（彦星）</td><td>17光年</td></tr>
<tr><td>ベガ（織姫星）</td><td>25光年</td></tr>
<tr><td>北極星</td><td>433光年</td></tr>
<tr><td>ベテルギウス</td><td>498光年</td></tr>
<tr><td>リゲル</td><td>863光年</td></tr>
<tr><td>プレアデス星団（すばる）</td><td>410光年</td></tr>
<tr><td>オリオン星雲</td><td>1400光年</td></tr>
<tr><td>アンドロメダ銀河</td><td>250万光年</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>242</td><td>中左</td>
<td>③ 銀河系の大きさ（直径約10万光年）や銀河系とアンドロメダ銀河の間の距離（約230万光年）とも比べる。</td>
<td>③ 銀河系の大きさ（直径約10万光年）や銀河系とアンドロメダ銀河の間の距離（約250万光年）とも比べる。</td></tr>
<tr><td>249</td><td>上右</td>
<td>3 図1の④の位置にある金星は，太陽と地球を結んだ線から約45°はなれていた。このときの金星は，最大約何時間くらい観察することができると考えられるか。</td>
<td>3 図1の④の位置にある金星は，太陽と地球を結んだ線から約45°はなれていた。このときの金星は，最大約何時間観察することができると考えられるか。</td></tr>
</table>

訂正箇所		原　　文	訂　正　文
ページ	行		
268	下左	**❷ 生態系における生物の関係** →P.260, 261 光合成をする植物などは (　　　)，草食動物や肉食動物は (　　　)，菌類や細菌類は，生物の遺体や排出物を無機物に変える (　　　) という役割をしている。	**❷ 生態系における生物の関係** →P.260, 261 光合成をする植物などは (　　　)，草食動物や肉食動物は (　　　)，菌類や細菌類は，生物の死がいや排出物を無機物に変える (　　　) という役割をしている。
312	中左	**分解者**　261　生態系のなかで，生物の遺体や動物の排出物などの有機物を養分としてとり入れ無機物に分解する生物。	**分解者**　261　生態系のなかで，生物の死がいや動物の排出物などの有機物を養分としてとり入れ無機物に分解する生物。
313	上右	**3　炭素の循環** 下図は，自然界における炭素の循環を表したものである。  	**3　炭素の循環** 下図は，自然界における炭素の循環を表したものである。 

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		
268	中右	**3 炭素の循環と地球温暖変化** →P.266, 267	**3 炭素の循環と地球温暖化** →P.266, 267
305	11	284ページで，生分解性プラスチックを学習した。このプラスチックは環境（かんきょう）に配慮（はいりょ）されたものである。さらに，石油を原料としないプラスチックも開発されている。石油以外の物を原料にすることで，将来の世代に石油をより多く残すことが可能になる。最近では，微生物（びせいぶつ）の生命活動を利用したバイオマス発電やバイオエタノール燃料も開発されている。 	284ページで，生分解性プラスチックを学習した。このプラスチックは環境（かんきょう）に配慮（はいりょ）されたものである。さらに，石油を原料としないプラスチックも開発されている。石油以外の物を原料にすることで，将来の世代に石油をより多く残すことが可能になる。最近では，微生物（びせいぶつ）の生命活動を利用したバイオマス発電やバイオ燃料も開発されている。
305	図6	 図6 **石油を燃料としない自動車** （バイオエタノールを燃料に使った自動車）	 図6 **バイオ燃料を導入して走っているバス**

訂正箇所 ページ	行	原　　文	訂　正　文
314	中右	**世界のたね** **真理を探求する科学の物語** アイリック・ニュート　著 猪苗代英徳(いなわしろひでのり)　訳 最初にあるのは「好奇心(こうきしん)」。そして何かを知るためには，どんな場合でも１つの問いから始めること。人類の真理探究の歴史をたどり，持続可能な未来の探究へとつなげましょう。 	**世界のたね** **真理を探求する科学の物語** アイリック・ニュート　著 猪苗代英徳(いなわしろひでのり)　訳 最初にあるのは「好奇心(こうきしん)」。そして何かを知るためには，どんな場合でも１つの問いから始めること。人類の真理探究の歴史をたどり，持続可能な未来の探究へとつなげましょう。
326	下右	**確かめと応用　活用編** 1 ①ウ ②急ブレーキがかかったときに，慣性によってからだが前に投げ出されないようにするため。③ア，エ ④ア：熱エネルギー，イ：運動エネルギー，ウ：電気エネルギー ⑤右図 ⑥ア 2 ①右下図 ②仕事の原理から，道具を使っても仕事は変わらない。 ③22.5  	**確かめと応用　活用編** 1 ①ウ ②急ブレーキがかかったときに，慣性によってからだが前に投げ出されないようにするため。③ア，エ ④ア：熱エネルギー，イ：運動エネルギー，ウ：電気エネルギー ⑤右図 ⑥イ 2 ①右下図 ②仕事の原理から，道具を使っても仕事は変わらない。 ③22.5